



キンシャサの軌跡



JICAコンゴ民主共和国事務所通信

2013年7月 Vol. 4

Kinky Shot! -今月のキンシャサ-

新所長着任ご挨拶



マタティ橋30周年記念式典で、警察の音楽部隊を指揮しました！フルートで参加したかった♪

キンシャサに赴任して2か月。Kin何とかというお店が多く、出張で☆キンピカ(Kinpika)☆という町を発見し、次が楽しみ。週末は関係者有志と空手の練習やテニスで真剣ダフルス。外食もポルトガル、ギリシャ、フランス、イタリア、中国、インドなど豊富。外を自由に歩けない閉塞感で息がつかまるかと思いきや、日常生活は案外充実。

一方、仕事は?! コンゴ民主共和国は油断できない。会えば良い人は多いのだが…。大臣(やそれ以上)に何回面会を申し入れたことか。そうしないと物事が進まない。前任者の苦労を実感。しかし、やる気と向上心に溢れる事務所スタッフはいつも元気。負けないよう頑張らなくては。皆様ご支援宜しくお願いします!(小畑永彦)

癒しの隠れ里: Zongo

BC Life! - バ・コンゴで生きる -

キンシャサ生活で足りないもの。それはバカンスを過ごす楽園。充実したKinLifeを送りつつも、ふと日常を離れて心に溜まった澱を流したくなる。そんな折、遂に見つけた、コンゴ民の隠れた楽園を!! その名も「Zongo」。今回、キンシャサから車で約5時間の場所にあるこの楽園を紹介したい。

★鬱憤を吹き飛ばしてくれる豪快な滝

Zongoと言えば滝。「小規模なナイアガラの滝」と思えば近いが、雨季で水量が増している時の流れは圧巻。滝下で水しぶきを浴びながら叫ぶのがコンゴ流の楽しみ方だとか。

★三角テントor最高クラスのスイート、あなたはどっち?

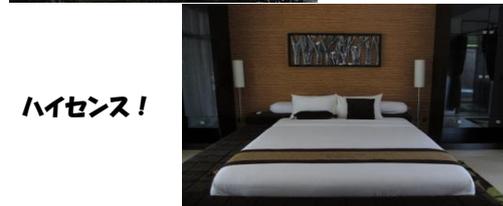
サバイバルを好む方はテントへ、そして優雅なバカンスを望む方はスイート・ロッジへ。驚くべきはスイート・ロッジの質の高さ。室内にはモダンな家具が並び、屋外には川に臨むテラスがあなたを待っている!

★めっちゃお得ですよ!

驚くべきはその値段。4人用のスイート・ロッジが一泊360ドル。一人当たり90ドル!(ちなみにテントは一泊40ドル)さらに、飲食代も僻地にあるリゾートとは思えないほど良心的。ちなみに、お勧めは食料を持ち込んでのBBQ! 癒し度、質の高さ、そしてお得度。どれをとってもコンゴ民No.1! さあ、あなたもZongoへGo!



豪快!



ハイセンス!



癒し!

Eat Matadi! -マタティで食べる-

エテンの園(その)



コンゴ川のシンボル
マタティ橋



プールサイド
のEden Park



コサコサ(ザリガニの
仲間)

コンゴ川に架かる唯一の橋、マタティ橋。コンゴ人が新婚旅行に訪れるという風光明媚なスポット。この橋の向こうに巨大なポテンシャルを秘めたインガダム(4万2千MW!!)でもほぼ未開発がある。さらに、この近くに1,000mの音波探査器でも底に到達しない箇所があり、目のない深海魚も見つかったことがあるとか…。しかし、残念ながらこのダイナミックな景色を活かした気の利いたレストランはほとんどない。ではマタティ橋建設に関わった何百人もの日本人は雄大なコンゴ川を前に、どんな余暇を過ごしていたのか…?

え〜い、無いなら作ってしまえ♪と自分たちで作った施設がこの楽園「Eden Park」。プール、フィットネスジムとレストランを完備し、現在はレバノン人が経営する地元の憩いの場。コンゴ料理、インド料理、イタリア料理(?)…中でもお薦めは「コサコサ・イタリア風」。コサコサとは汽水域にいるザリガニですが、大きめのエビのようで、ニンニクの効いたトマトソースとよく合う。また、コンゴ川の白身魚「キャピテン」も美味。なお、マタティのビールは「33(Trente-Trois)」がラガーで喉越しよくお薦め☆マタティに至る国道1号線沿いには「あと33キロ(地名)」という看板がたくさん。マタティの夜はコサコサとラガーで決まり☆是非ご賞味ください!!

(前回の続き)4車線化要請、工事中断命令、先方負担分予算問題等、様々な苦難を経て実施されているポワ・ルー改修計画。しかし日本式の工事手法はコンゴ国内で大絶賛を浴び、一躍JICAの目玉プロジェクトとなった。

その一方、現場では苦勞が絶えない。4車線に拡張した結果、地中の水道管や電線の移設が必要であるが、電力会社はどこに何が埋まっているかさ把握していない。掘ってみたら1か所に16本電線が埋まっていたこともある。この電線が活着ているのかは切ってみないとわからないらしい。と思えば、突然日曜日に来て電線の埋設のため地盤を適当に掘り起し、そのまま放置。窪みにタイヤがはまって抜けなくなるトラックが渋滞を起こす。更には、今さら鉄道公社が突然道路上に線路を引かせると訴える。工事開始前から何度も必要か確認してたのに。夏休みの宿題を8月31日にやる小学生の様に、問題が迫ってから動き出すコンゴ人。完工予定の2014年6月までは悩みの種は尽きない。

しかし日本とJICAの名前を浸透させ、人口1000万人ともいわれる巨大都市キンシャサの中心道路の渋滞解消に貢献できるこのプロジェクトは今後もコンゴで語り草となるであろう。キンシャサ空港から町へ入るときはぜひこの道路を通して欲しい。日本人の汗と涙と税金がしっかり詰まった素晴らしい道路である。(終わり)



こんな道路が...



こうなりました!

「人と人を繋ぐ橋」：マタティ橋30周年記念式典

コン月のイベント



マタティ橋に「ようこそ」のバンドロールが!



30周年の記念品を受け取るVétérans

円借款により1983年に完工したマタティ橋の30周年を祝うため、日本から建設時に事業に係っていた「Vétérans」(日本人技術者たち。自称「7人のサムライ」)が自費ではるばる現地に来訪した。

6月18日、マタティ橋を望む記念公園にて両国の国歌が流れる中、式典開始。皆口を揃え、マタティ橋は日本とコンゴの「友好のシンボル」であり、主要な港と首都を繋ぐ国道上に位置し、コンゴの経済発展に貢献していると。マタティ橋に鉄道を整備し更なる発展を!という建設当初からの悲願も語られた。その後の視察では、橋の上で30年ぶりの再会を果たし涙ぐみながら抱き合う当時の関係者の姿も。Vétéransの橋の印象は「30周年を迎えるとは思えないくらい美しい」。

さて、場所を移してのプレゼンでは、マタティ橋建設の準備段階から内戦の時期を挟んで現在に至るまでの数々のドラマが語られ、最後に現在実施中のJICAマタティ橋維持管理プロジェクトが紹介された。今回のプロジェクトでは最新の技術を導入し、維持管理マニュアルを更新する。「マタティ橋30周年は1つの節目。今こそ、次の世代に引き継いでいく時期。」

Vétéransは語る。「式典にこれだけの人が集まり、維持管理を懸命に行うOEBK(キンシャサ・ハナ交通公団)職員やそれを支援する日本人がいる。国を超え、世代を超えて人を繋げているのは「マタティ橋」そのもの。」

愛すべき?コンゴ人

編集後記



所属: OEBK

氏名: マティアッタさん

OEBKの元No.2。マタティ橋の建設時から携わり、中身はすっかり日本人。「ひなげしの花」をアカペラで2番まで歌える。完工30年を経てなお維持管理されているのは、全て彼のおかげと言っても過言ではない。

目下の悩みは日本語能力の維持だが、今回のVeteransは久しぶりに仏語での会話を希望し、ちょっと残念そうだったとか...

新所長を迎えてのバ・コンゴ特集では、コンゴ民のまた違った表情を楽しんで頂けたのではないのでしょうか? 次回はキンシャサに舞い戻り、皆様の期待を裏切らないキンシャサらしいキンシャサをお届け予定です!

大好評頂いたポワ・ルー連載は今回で感動の最終話(涙)。暖かなご支援をありがとうございました。次回からはまた4回連載で、巷で噂の「警察研修」をお届け! 警察と愉快な仲間たち♪を相手に七転八倒する日々をお届けします。お楽しみに☆